

対象年度		令和 3年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		青少年教育推進事業（スクールサポート推進事業）						予算事業名		青少年教育推進事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				10	05	03	2001	経常経費							
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分		主要事業					
		4-1生きる力を育む教育環境づくり（学校教育）													
		①教育内容の充実						担当課係等		生涯学習課					
3教育体制の充実						生涯学習係									
事業期間		継続（平成28年度～令和 3年度）													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
教員を目指す大学生が小中学校に赴き、授業や部活動において先生のサポートを行うことによって、教員としての資質や能力を高めるとともに、授業のより一層の充実を、小中学生の基礎学力の向上及び基本的生活習慣の確立に繋げる。							平成26年小山市との友好都市盟約締結により、小山市との交流活動が教育面でも活発になった。小山市内の大学との交流により、将来教職を目指す学生の活用は、小中学校の教育活動を活性化している。								
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】								
本市及び近隣地域に居住し、かつ将来教員を目指している大学生を、希望する市内の小中学校に派遣し、学習支援・放課後学習サポート・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助・外国人への日本語指導・生活適応指導等教育活動のサポートを行う。							市内全小中学生 教員を目指す大学生								
							【事業をとりまく環境の変化】 小中学生の学力向上や不登校やいじめ問題に関する生活指導は、茨城県だけでなく全国的な課題であり、各自治体での対応が見直されているところである。そのような状況の中で、大学生等によるサポート活動は、地元の教育資源の発掘と有効活用の中でも、大変意義あるものとする。								
【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】				【令和 5年度 事業内容】							
・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導				・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導				・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導							
■事業費															
				R01年度		R02年度									
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	0	0								
	そ		の		他	0	0								
	一		般	財	源	155	718								
歳入計（千円）				155		718									
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）									
	07	報償費		148		696									
	11	役務費		7		22									
歳出計（千円）（A）				155		718									
伸び率（％）						363.22									
備 考	総合計画113ページ 予算書178ページ														
	※事業費：青少年推進事業のうちスクールサポート推進事業分のみ計上														

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R01年度	R02年度	R03年度
活動 指標	大学生サポーター数	人	目標	20.00	20.00	20.00
	1校につき、1名～3名のサポーターを派遣する		実績	11.00	0.00	0.00
	活動延べ日数	日	目標	168.00	100.00	200.00
	学生1人につき、年間12日を平均とする。		実績	148.00	0.00	0.00
成果 指標	支援学校数	13校	目標	13.00	13.00	13.00
	市内小学校【9校】+中学校【3校】+適応指導教室（ゆうの木）からのサポート依頼を受ける。		実績	7.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童・生徒に対して、よりきめ細やか支援ができる。各学校から、スクールサポーターに対する評価は高く、次年度以降も同様のサポートを望む声が多い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	学校及び学生を派遣する大学と連携して実施しており、妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	小中学生の学習支援や外国人への生活適応指導等を行う際、将来、教員を志望する学生をサポーターとして、各学校へ派遣するのは妥当といえる。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	サポーターの人員確保困難の要因となっている。
公平性	受益者の偏り	C 偏りがある	サポーターの多くが、電車を利用して小・中学校へ移動している。そのため、駅から離れている学校を希望するサポーターがおらず、派遣ができていない学校がある。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	学校側から、サポート人数や回数を増やす等の要望があり、本事業が有効であるといえる。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	サポーターの人数確保が難しく、サポートを希望する学校すべてに、学生を派遣することができない。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
事業については、各学校・サポーター共に好評である。しかし、多くの学校から、サポーターの派遣希望があるにもかかわらず、サポーター数の不足や交通手段の有無で、希望通りにサポーターを派遣できていないのが現状である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
事業をより効果的に展開するためには、サポーターの確保が最重要課題である。白鷗大学の学生に限らず、近隣の大学に広く募集をかけ、人材確保に努める。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 市内の全ての小中学校にサポーターを派遣できるよう、駅から離れた地区の小中学校への移動手段を確保することが課題である	
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	